

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970500516
法人名	社会福祉法人 寿ノ家
事業所名	寿ノ家 グループホーム
所在地	〒 406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場2031 電話番号 055-261-0021

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】平成20年10月15日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	8人	非常勤 0人 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 平成20年10月 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲州リハビリテーション病院(内科、整形外科、歯科等)
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月4日

ブドウ畑と住宅地が点在する中に、鉄筋コンクリート2階建てのグループホームがある。明るく、清潔なホーム内は、広々とゆったりとしており、利用者の表情も豊かで、ゆとりが見られる。同一法人による病院・特別養護老人ホーム等関連併設施設は、それぞれが特性を生かし、連携を取り合っている。利用者が、尊厳を保たれるケアサービスがなされており、更なる質の向上を目指して、常に振り返り、確認、自己点検がなされている。法人全体でもISOの取得、オンブズマン制度の導入などが、なされており真摯な努力と、高い意識を感じさせる。地域の一員として‘こども110番’の委託を受け、子供達との交流をきっかけに、地域との信頼関係を深めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善点については、職員ミーティングを繰り返し、改善計画を全職員で検討し、運営推進会議に報告、意見を出してもらい、取り組みや改善経過のモニタリングをしてもらった。「地域密着型サービスとしての理念」は、地域の中で‘共に支えあい、共に生きる’ことを明記した。「地域とのつきあい」に関しては、地域貢献をすることで、自然な交流が生まれてきている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、項目毎に管理者を中心に話し合いながら、自己評価をまとめた。全職員がミーティング等で、評価の意義を十分に理解している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1度、開催されている。年間の計画から予算・実績・決算もすべて報告し、終末期の看取り、地域との連携など討議内容は多岐にわたっており、活発な意見が交わされている。また、日々の関わりの中から出された家族の要望や意見等を、会議の中で取り上げることもある。会議の欠席者には、結果を議事録にまとめ送付している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に毎日の様子、健康状態を伝え、並行して意見・要望を聞くように努めている。年1回は家族アンケートを実施、法人グループにオンブズマン制度もあり、本年度から介護相談員の受け入れも開始した。出された意見・要望は運営推進会議・ミーティング・カンファレンスで確認し、実践に繋げている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入し、地域の行事には参加している。地域貢献になればと‘こども110番’を引き受けたことにより、子供が立ち寄り、そこから小学校、子供の家族と交流の輪が広がった。また、笛吹市からの依頼があり、ホームを大規模災害時の避難場所として協力することになった。災害時は地域と連携が取れるような体制作りを目指し、努力している。

2. 調査報告書

事業所名： 寿ノ家 グループホーム

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、その人らしく暮せるような支援がされている。また、ホームだけの自己満足に終わらないように地域の一員として、地域に貢献することを目指し、‘地域の中でともに支えあう’ことを目指した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度始め、月毎のミーティングの場でも確認し、ネームカードにも経営理念・基本方針を書き入れ日々理念の意識づけがなされている。また、ISOを取得し、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域での防災訓練、お祭り、初詣などに参加している。地元での買い物や美容院の利用、近所付き合いなど交流に努めている。地域貢献として「こども110番」を引き受け子供の支援から小学校の交流にと繋げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がミーティング等で、外部評価の意義を理解している。自己評価も管理者を中心に話し合いながらまとめた。評価結果についても全員が確認し、具体的な改善策を計画、運営推進会議で説明し、家族に向けても発信している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催されている。メンバーは幅広い立場の人に参加してもらっており、全家族が構成メンバーになっている。ホームの様子、取り組みなど報告、家族の意見・要望、地域との連携における課題、外部評価の結果・改善策など協議・検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れ、利用者の意見・要望をホームに返してもらっている。地域包括センター企画の研修会への参加、地域密着型施設の連絡会の立ち上げなど、市担当者との連携は取れており、きめ細かい情報提供がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	運営推進会議でホームの様子、カンファレンスの際、面会時を利用して個々の暮らしぶりや様子を伝えている。急の場合は、電話連絡もある。法人発行の「寿だより」を配布している。金銭の出納も明確に記録し、コピーを渡し、サインを得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアカンファレンスの際に、要望を引き出すような声かけを心がけている。毎年、家族へアンケートを実施しており、他に、意見箱の設置や法人全体のオンブズマン制度もある。家族同士で集まり、話し合える場などは設けられていない。	○	家族が意見・不満・苦情を表せる機会は作られているが意見などは寄せられていない。家族同士の集まりの場を作る等、意見を出せるような工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者も、利用者と管理者・職員とが馴染みの関係であることを重視している。開所以来、ほとんど動きはないが、やむを得ない人事異動の場合は引継ぎ期間を十分にとり、職員の配置を多めにする、利用者・家族に説明する、などの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会や勉強会も、定期的に行われている。外部研修の機会も確保されており、職員訓練の計画および記録を作成し、能力開発評価システムや人事考課制度シートを使い、段階的な目標設定をして、達成感の持てるトレーニングを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある、5箇所の地域密着型サービス事業所により、連絡会が発足し、交流の機会が設けられている。見学、実習、学生ボランティアの受け入れや愛育会、民生委員の研修などに協力しており、同業者の訪問も受けている。また、運営者も同業者との交流について理解がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては、本人が気に入ってもらい納得するまで見学してもらい、不安のないよう説明をしている。見学の時間帯もオープンにしてホームの雰囲気を感じられるよう工夫している。必要があれば、ホーム側から出向くこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、大切にしている関わりのひとつであり、互いに支え合う関係づくりを心がけている。実際に料理のノウハウから故事、生き方の問題など経験豊かな力で助けられ、励まされている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で聞いたり、カンファレンスの際に家族も加え、意向を聞いている。センター方式も使い、利用者の言葉・表情・生活歴などを書き込み参考にしてはいるが、個々により感じ方が違うので様子を見ながら担当者が中心に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを3か月に1度行い、6か月に1度は家族・本人の希望を聞き、看護からの意見も聞く中で介護計画を作成している。センター方式アセスメントにも転記し、課題を明確にし、サービス計画書に書くニーズは、本人の言葉をそのまま書くなどの工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス適正チェック表を作り、毎月見直しをし、担当者がモニタリングをしている。身体状況の変化により、突発的に介護計画の変更が必要になることもあるが、現状に即した介護計画を新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の行事の参加や、帰宅や知り合いの家にお茶を飲みに行く、買い物の同行、通院の送迎などの支援を柔軟に対応している。ひとりひとりの要望に答え、満足度を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先している。9人中7人が法人内の病院の医師を主治医としていて、問題があれば、すぐ往診・診療が受けられる。看護の面での連携も取れており、看取りも可能な体制が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、カンファレンスの際に話し合い・希望を確認している。その後の心情の変化も、毎年、年度の変り目に利用者生活連絡表に記入し、関係者との情報の共有にも努めている。法人グループ全体に看取りの委員会があり、勉強会がもたれている。また、グループホーム独自の指針・手順書も作られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室にトイレがあり、トイレ誘導等の声かけや対応は十分配慮されている。記録などの個人情報は独立した事務室内で作成、管理しているので外来者の目に触れる事はない。法人内で個人情報についての勉強会を開き、意識を高めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人に意思決定してもらう事を大事にして、選択肢を用意するよう工夫している。体調やペースは、把握しているので、就寝時間・起床時間・入浴等も個々の生活パターンに合わせた、支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と献立会議を開催して、希望を反映し、相談しながら決めている。また、調理・盛り付け・片付けなど‘出来る人・出来ない人’と能力を決め付けないよう留意し、やりたいという気持ちを引き出す、声かけや場面作りがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴でき、時間帯も個々に希望の時間に入っている。入浴拒否の人はいないが、勧める必要のある人には言葉かけを、入浴を不安がる場合は、不安を取り除く工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	文化祭・お花見などの年間行事もあるが、生活の中から必要に感じた時に臨機応変に楽しみごと、気晴らしの支援している。役割は無理強いせず、本人の自信や満足に繋がるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望による買い物の介助、外出の支援がなされている。美容院は、各々の馴染みの店にいて、散歩もその時々に行きたい人だけが出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が‘鍵をかけないこと’の大切さは認識しており、夜間のみ施錠している。利用者の中には、外に出てしまう場合もあるが、職員が付いて行くようにしている。全てに原因があることなので、それに対応した支援が工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間に2回の避難訓練が行われ、時間を日中と夜間のそれぞれ想定して、全員参加で行われている。もしもの時のマニュアルを作成し、消防署、他施設の協力が得られるよう整備されている。地域の協力・理解を得られるよう運営推進会議で検討中である。	○	事業所・職員と利用者、警備会社・防災担当者も参加して、一緒に定期的な訓練がなされているが、地域の協力体制に不安がある。運営推進会議でも取り上げ検討しているとのこと、具体的な支援体制の整備につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分の摂取状況は職員が情報を共有している。一人ひとりの状態を把握するため、食事留意点表を作成し、摂取量、形態、好き嫌い等も分かるよう工夫されており、献立は法人管理栄養士にチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターには季節の草花が植えられ、季節を感じられる玄関は入り易い。広々とした居間にはゆったりしたソファが置かれて、テレビ観賞にも程よい空間を確保できている。壁に飾られた写真の作品も利用者が選んでおり、一人ひとりの感覚を大切に、居心地よい空間を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みの家具や写真、時計、装飾品が好みに合わせて配置しており、その人らしい部屋作りがされている。各部屋にトイレが付いていること、phsを利用したコールがあるなど、安心につながっている。		